

世界史B

第3問 問7

資料から情報を読み取り考察する問題で、各学力層で差がついた

資料1:シェイエス『第三身分とは何か』
 資料2:1848年の二月革命
 資料3:パラツキー「フランクフルトへの手紙」
 資料4:オスマン帝国の「改革勅令」
 (著作権の都合により非掲載)

問7 けんた、みか、ゆうとは、3回の授業内容や資料1～4をふまえて、次のカードを作成した。カードの内容の正誤として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 21

けんた

シェイエスは、特権を持った身分の存在は、国民という考え方には相容れないと考えていた。

みか

パラツキーは、ドイツ連邦内の少数民族にとって、ドイツの統一と自民族の自立は両立が可能だと考えていた。

ゆうと

19世紀のオスマン帝国では、非イスラーム教徒をイスラーム教に強制的に改宗させることで、平等な権利を持った国民を創出しようとした。

- ① けんたが正しい。 ② みかが正しい。
 ③ ゆうとが正しい。 ④ 全員誤っている。

第3問 問7

| | |
|---------|-------|
| 正解率 | 64.2% |
| SS60～65 | 91.9% |
| SS55～60 | 85.7% |
| SS50～55 | 77.0% |
| SS45～50 | 62.6% |
| SS45未満 | 34.4% |

2021年度第1回ベネッセ・駿台
 大学入学共通テスト模試
 「世界史B」
 受験者数: 65,646人
 平均点: 53.1点
 標準偏差: 19.0

世界史B

第3問 問7

資料から情報を読み取り考察する問題で、各学力層で差がついた

結果分析

第3問の問7は、教科書にはない初見の文献資料を読み、そこから情報を読み取り考察する問題で、学力層で差がつかしました。

ここでは、会話文と4つの資料を踏まえて、選択肢にあるカードの内容の正誤を判断することが求められました。資料1~4では、フランス、ドイツ、オスマン帝国と複数の事象がとりあげられています。どの資料がカードの内容にどう関わるかを判断するために、資料から情報を読み取り、さまざまな要素と関連づけて考える力が必要とされました。

指導のご提案

知識の整理、習得とともに、資料から読み取った情報を出題の意図に関連づけて考察する力をつけることも、得点にはかせません。こらからの2か月半で、さまざまな資料を用いた実戦的な問題演習を重ねるとともに、内容を理解する際にも、「資料で何を述べているのか、表しているのか」という視点や、「出題意図に関連づけて考える」という視点で学習をすすめることが大切です。

共通テストでは、文献資料やグラフ・表や地図、また写真などのさまざまな資料が提示され、そこから情報を読み取り、事象相互のつながりに着目し、関連づけて考察する出題が予測されます。上記の観点で資料読解をしていくことが、資料の着眼点を見つける力の育成につながります。